

ヒブワクチン 知っていますか！？

院長

皆さんは、Hib(ヒブ)という言葉を知っていますか。多くの親御さん達には、なんのことかわからないと思います。Hibは細菌の略称で、正式にはインフルエンザ菌b型(ヘモフィルス インフルエンザb型を略して、頭文字からHib)と呼ばれます。インフルエンザとb型が出てくると、冬に流行するインフルエンザウイルスと誤解されやすいのですが、全く別なものです。しかし歴史をみると、面白い話があります。19世紀の後半に今で言うインフルエンザが流行した時に、患者さんからHibが見つかりました。この時代にはウイルスの概念が無かったため、たまたま見つかったインフルエンザ菌が原因と考えられました。もちろん、インフルエンザは細菌性の病気ではなく、後にウイルスが原因ということがわかった訳です。

さて、Hibは何が問題になるのでしょうか。皆さんは細菌性髄膜炎という言葉聞いたことがあるでしょうか。髄膜炎は、子どもの重症な病気の代表のひとつです。一般的に髄膜炎は、上気道や呼吸器の感染病巣から血液に入り、脳内に入り髄膜に炎症を起す病気です。中枢神経系の病気ですから、当然死亡率が高いだけでなく、後遺症を残す頻度も高くなります。ちなみに死亡率は20%、後遺症を残す割合は15~20%といわれています。細菌性髄膜炎の原因菌はHibだけではなく、このHibによるものが最近増加しているといわれています。確かな統計的なデータが無いのですが、年間600人以上も罹患、100人以上が死亡していると推測されています。約半数は0~1歳に集中し、小さい子どもにみられるのが特徴です。髄膜炎以外にも、重症な喉頭蓋炎、肺炎などの病気も引き起こします。

細菌性髄膜炎というと何か特別な状況で起ると考えがちですが、必ずしもそうではありません。Hibは健康な子どもののどにも、症状が無い保菌者として5~10%程度存在しているというデータがあります。ということは、誰でも細菌性髄膜炎になる可能性はあるということです。但し、病気としての頻度は低いので、可能性はあるにしてもすぐに病気になると心配するほどではありません。

Hibによる感染症には、いくつかの問題点があります。ひとつは、診断の難しさです。髄膜炎というと重症だから、すぐに診断がつくと思いがちですが、必ずしもそうではありません。髄膜炎の症状の特徴は、発熱と嘔吐です。皆さんも発熱や嘔吐は一度ぐらい経験したことがあると思います。症状の始まりは子どもによくみられる嘔吐下痢症などと同じです。当院では開業以来4例の細菌性髄膜炎を経験しましたが、発熱や嘔吐以外の症状は、顔色が悪い、何となく様子がおかしいなど、特徴的な症状ではありません

でした。進行すればけいれんや意識障害などみられますが、その時点での診断では遅く、死亡率も後遺症率も明らかに高くなります。小さい子どもに多いこと、特徴的な症状が無いというのが、診断が難しい理由です。幸い当院の子ども達は、全員生存し、後遺症も無く普通に暮しています。もうひとつは、耐性化の問題です。細菌感染治療の原則は抗生物質ですが、この抗生物質が効かなくなることを耐性化と呼び、効かなくなった細菌のことを耐性菌と呼んでいます。10年ぐらい前から耐性菌が増え、抗生物質による治療が十分な効果が得られないという深刻な問題も起きています。



誰でもかかる可能性があり、診断が難しく、治療に難渋するとなると、予防しかないということは、皆さん簡単に想像できることだと思います。先月号の麻しん・風しん混合ワクチンの記事でも紹介した通り、日本のワクチン行政は遅れています。このHibワクチンは1993年のWHOの勧告を受け、既に世界110ヶ国以上で定期接種されていますが、先進国で接種できないのは日本だけというさびしい現状です。日本でも2007年にワクチンとして承認されていますが、未だに認可されず接種できない状況です。ワクチンの有効性は十分確認されていて、ワクチン接種によって、Hibの重症感染症はほぼ100%防げると言われています。ワクチンとなると副反応を心配する人が多いのですが、従来のワクチンと比べて頻度は変わらない程度です。

多くの小児科医の努力により、近日中(8~9月ごろ)にワクチンが接種できるよう(認可)になりそうです。接種回数や対象者は、三種混合ワクチンとほとんど同じですが、5才以上では免疫があるため必要が無いというのが一般的です。三種混合と同じ接種回数になる予定ですが、年齢によって接種回数が変わることになります。しかし、ワクチン接種に関しては、現時点では水痘やインフルエンザと同じで、任意接種という形になる予定です。任意接種では接種費用が自費となるため、費用(2~3万円)を考えると接種率が上がることが望めないのが現状です。

この記事で知ってもらいたいことは、Hibは重症感染の原因となること、細菌性髄膜炎は死亡率が高いだけでなく後遺症を残す率も高いこと、3歳未満が罹患すること、ワクチンで予防可能なことです。我々も重症感染の子どもを少しでも減らすために、努力しています。この記事を読んだ親御さんも、この病気の理解を深めてください。Hibワクチンが接種できるようになったら、接種を考えてください。そして、接種率を高めるためにも、是非定期接種(無料化)のために力を貸してくれるようお願いいたします。

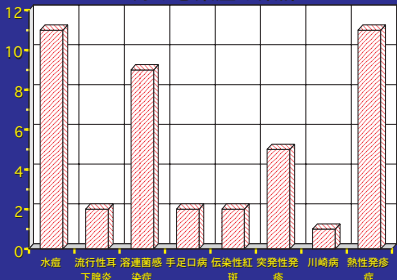
読者の広場

先月は、19通のメールを頂きました。まずは秋田に転居した高橋さんのメールを紹介します。「こんにちは！私、いつもお世話になっていた高橋駿太の母



です。先日は嘔吐下痢の後の登園許可書にクリニックの無料ゴム印(笑)を押していただいてありがとうございましたm(_)_mところで私達家族は夫の転勤の為、先日仙台を離れ今秋田市に住んでおります。ぎりぎりまでクリニックにはお世話になりましたm(_)_m感謝の気持ちでいっぱいです。嘔吐下痢で点滴3本だてのときは看護婦さんが常に様子を見に来てくれて、私ながらに看護婦さんは「お昼ご飯食べてるの?!と点滴を待つ間余計な想像までしていました…。クリニックに行ったら川村先生・スタッフの皆様の顔を見るだけで安心できる。と感じているのは私だけではないと思います。私事なのですが以前クリニックに栄養指導で来ていた泉さんと一緒に働いていました。勤務先で泉さんと席が近くなると川村先生の話で盛り上がり上がっていました。モノマネとか(笑)すみません!!本題からそれてしまい申し訳ありません(^_^;)クリニックのように信頼できてアットホームな小児科を秋田市で頑張って見つけようと思います。クリニックの診察券を見ると本当にお世話になったなあとしみじみしてしまいます。(涙)本当に本当にありがとうございました(T_T)また仙台に住むようなことがあれば必ずクリニックに行きますので宜しくお願いします!。皆様お体ご自愛くださいね」。秋田でもいい病院を見つけてください。モノマネって?、ちょっと気になりますね(笑)。もう一通は〇区のSさんからです。内容を考えて匿名にしました。「ご無沙汰しております。〇区の〇〇XX・△△の母です。先日とてもくやくして悲しい思いをしました。(略)下の子が39度近い熱を出し保育園から電話をもらったのが17時過ぎ。急いで迎えに行き帰りの支度をして、病院の受け付け時間を少し過ぎてしまうと、「5分程遅れそうですが子供が熱を出したのでお願いします」と電話を入れると、『今日は混んでいるので18時を過ぎるなら受け付けられない。夜間診療か休日診療へ行くように』との事。一度は諦めたのですが、パパが車で保育園に着いたのが18時5分前…すぐに出ればぎりぎりセーフかもと思い(略)、病院へ向かいました。下の子は中耳炎で抗生物質を飲んでいたので、「細菌性の風邪ならその薬でも大丈夫。逆に、その薬を飲んでいるのに熱が出たらきっとウィルス性だと思うので出す薬はない。」。解熱剤は家にあったので結局薬も出さず、診察もあっという間に終了…嫌な思いをしただけで無理して来なくてもよかったかな?と後悔してしまいました。パパが病院へ向かう車から「あと1~2分で着くのでお願いします」と電話をしたので何とか滑り込んで診てもらえたのですが、その直後に来た、おばあちゃんに連れて来られた子供は断られたそうです。時間はたった1分過ぎただけなのに…病気の子どもを前にして、どうしてそんな冷たい態度が出来るのが、悲しくなるのと同時に腹立たしい気持ちでいっぱいでした。こんな時、川村先生なら…クリニックのスタッフのみなさんなら…とつい考えてしまい涙が出そうになってしまいました。この病院は、行きたくて行っているのではありません。ただ近いから。(略)以前も時間や何かの都合で、最後にこの病院に行ったのですが、『病院をコロコロ変えて、この子の為に良くない』、『川村先生の所がいいならずっとそっちで。別に無理に来ることないから』と言われ、「来て来てくるんじゃない!ただ近いからです!!」と言いたかったけど、それを言ったらもう来られなくなると思い、とても悔しかったけど我慢しました。そんな時に浮かぶのはやっぱり川村先生やスタッフのみなさんの温かさです。川村先生達が近くにいるくれたらどんなに安心で心強いらろうといつも思います。この病院の機械的な対応しができない人達に、一度かわむらこどもクリニックを見てほしい!と本当に思います。長々と愚痴メールをすみません。またいつもお世話になるか分かりませんが、その時はよろしくお願いします。相変わらずお忙しい事と思いますが、先生もお体に気をつけて下さいね。こんな返事を差し上げました。「困った時には相談できる場所があり、いざとなればしっかり診てもらえる病院があるだけ幸せ。そう考えれば、気が楽になりますよ」と!。

4月の感染症の集計



特別流行している感染症はありません。溶連菌感染症が少し増加傾向です。一部の施設でインフルエンザBの流行がまだ続いているようです。そろそろ夏カゼが出てきそうです。

『お母さんクラブ』のご案内

新年度になり、お母さんクラブ会員募集中です。
「こどもによく見られる症状・病気と対処法」
5月22日(木) 14:00~ 福沢市民センター

ホームページの紹介

「アトランティス」のHP(<http://www.atlantis-d.com/>)で、「親子ダイバーダイビングコミュニケーション」で紹介されました。院長の趣味の一面を垣間見ることが出来ます。興味のある方は是非!

「ヒブワクチン 知ってますか!？」の参考資料

- ・ヒブワクチンの実際 竹内一 ノーブルプレス 2008
- ・あなたのお子さんに「Hibワクチン」が必要です 日本外来小児科学会

「細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会」

<http://www.k4.dion.ne.jp/~zuimaku/>

5月のお知らせ

- ・臨時休診 5月24日(土)午後休診
- ・日本外来小児科学会役員会(名古屋)
- ・医学部学生実習 5月30日(金)
- ・栄養育児相談 毎週水曜日 13:30~ 栄養士担当



編集後記

今年のGWはカレンダー通りです。最近長い休みを頂いてダイビングでしたが、今年は都合がつかず近場でんびりしようと思っています。いつもの年よりは皆さんへの迷惑は少ないと思います。リフレッシュできるといいのですが。

